

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和6年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第9号（12月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081 (代表)

099-245-1157 (直通)

099-245-1149 (FAX)

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス : <https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>

メールアドレス : nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp



農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理, 安全使用
2. 作物に対する安全 適期, 適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川, 湖沼, 海等への汚染防止)
(養蚕, 養蜂等への危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

農薬ラベルを確認しましょう

農薬の飛散(ドリフト)にも注意しましょう

令和6年度 病虫害発生予報 第9号

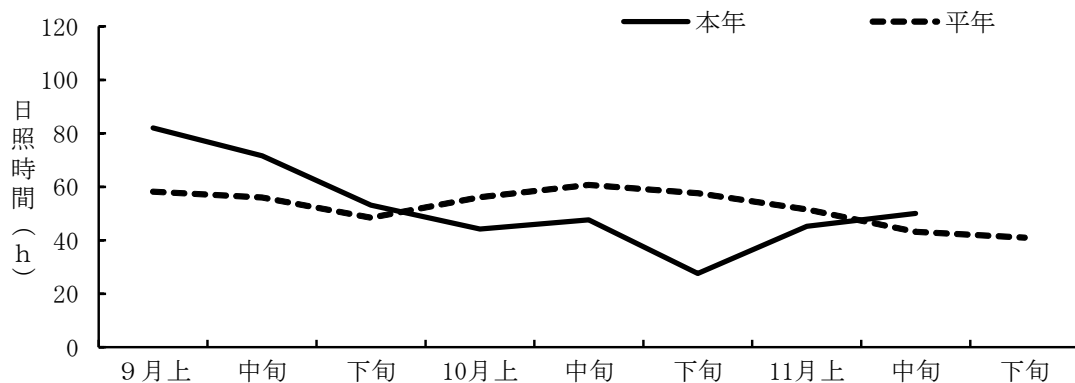
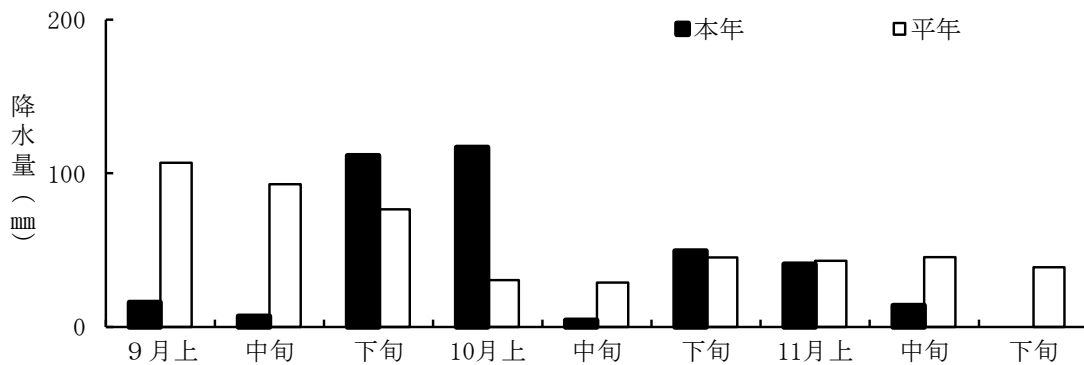
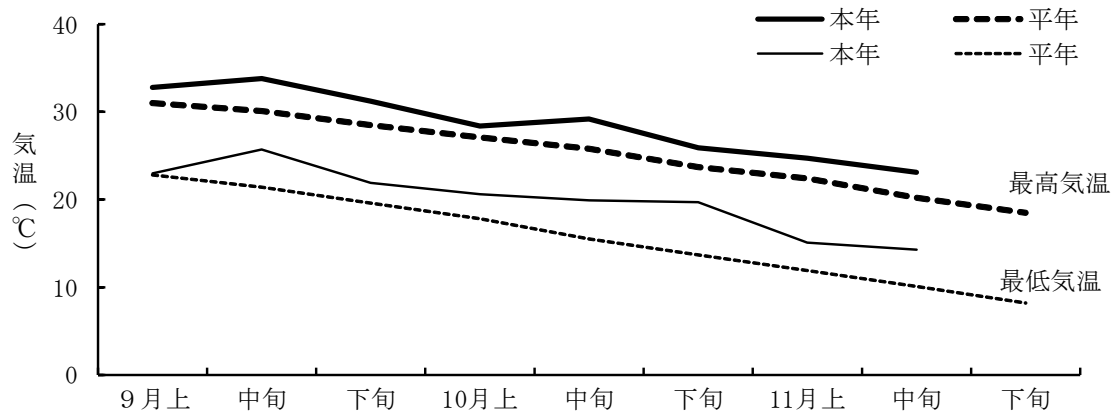
令和6年11月28日
鹿児島県病虫害防除所

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（11月23日から12月22日） 令和6年11月21日 鹿児島地方气象台 発表

要素	地域	確率（％）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	30	30	40	両地方とも、気温、降水量、日照時間ともにはほぼ平年並の見込み。
	奄美地方	30	30	40	
降水量	九州南部	30	40	30	
	奄美地方	30	40	30	
日照時間	九州南部	30	30	40	
	奄美地方	30	40	30	

II. 9～11月の気象情報（鹿児島地方气象台 観測点：加世田）



【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名	発生量	
			現況	予報
野菜	キュウリ	コナジラミ類	多	多
		アザミウマ類	やや多	やや多
	トマト	コナジラミ類	多	多
	ピーマン	アザミウマ類	やや多	やや多
		タバココナジラミ	やや多	やや多
	イチゴ	うどんこ病	やや少	やや少
		アザミウマ類	多	多
		ハダニ類	やや少	やや少
	キャベツ	菌核病	やや少	やや少
	エンドウ類	褐紋病・褐斑病	並	並
うどんこ病		やや多	やや多	
アザミウマ類		並	並	
花き	キク	ハダニ類（県本土（施設））	やや多	やや多
		アザミウマ類（県本土（施設））	やや多	やや多
		〃（奄美地域（露地））	やや多	やや多

【 病 害 虫 発 生 予 報 】

I. 普通作物

防除に関する今月の留意事項

1. 水稻

(1) スクミリンゴガイ

発生ほ場では、水田と水路内での越冬個体を減らすために、以下の防除対策を行う。

ア 1月までの冬期に、トラクターでは場を耕耘（走行速度を遅く、ロータリーの回転は速くする）して、土壌中の貝を寒風にさらすとともに破碎する。

イ 水路内での越冬場所をなくし、越冬個体を寒風にさらすため、水路の泥上げを地域全体で行う。

2. サツマイモ

(1) サツマイモ基腐病

次作の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

<種いも>（健全種いもの確保と消毒）

ア 発病ほ場から収穫したいもを種いもに利用すると、貯蔵中に発病するため、必ず健全ほ場から種いもを確保する。

イ 貯蔵中の発病リスクを減らすため、貯蔵前に流水で水洗・選別して、なり首と尾部を切除する。その上で、トップジンM水和剤で消毒し、十分に風乾させる。蒸熱処理については農研機構のマニュアルに従い適切に行う。なお、蒸熱処理直後の種いもの表皮は柔らかいので、傷をつけないよう、丁寧に扱う。風乾後は、適正な温度と湿度を確保できる定温貯蔵庫等で貯蔵する。切除に使用したハサミ等は、こまめに消毒する（火炎滅菌、または丁寧に洗浄と拭き取り）。

ウ 罹病した種いもが同一コンテナ内に混入すると、貯蔵中に健全な種いもへ伝染するため、定期的に種いもの状況を観察し、疑わしい種いもは必ず除去する。

エ 貯蔵前に種いも消毒を行っていない場合は、伏せ込む前に必ず種いも消毒を行う。また、病害発生いもや傷の多いいもなどの除去を徹底し、健全な種いものみを土壌消毒した苗床に伏せ込む。

<育苗床>（苗床の準備と消毒）

ア 残さをほ場外に持ち出し、適切に処分する。

イ 残さ持ち出し後、複数回耕耘する。

ウ 土壌消毒は、適正な土壌水分の条件下で、殺菌効果のある剤（バスアミド等）で実施し、処理後直ちに必ずビニール等で被覆する。また、消毒後は、ガス抜きを十分に行う。

<本 ぽ>（収穫後の残さ対策の徹底）

ア 屑いもや落梗等の残さは、収穫を終えたら速やかにすき込みを行う。

イ すき込んだ後も、定期的（1回／月程度）に耕耘して分解を促す。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 (https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20240315133011-1.pdf)、農研機構 (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf) をご覧ください。

鹿児島県



サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル
(第4版)
令和6年3月改訂

農研機構



サツマイモ基腐病
の発生生態と
防除対策
(令和4年度版)

II. 野菜

1. キュウリ

(1) コナジラミ類

ア 予報内容

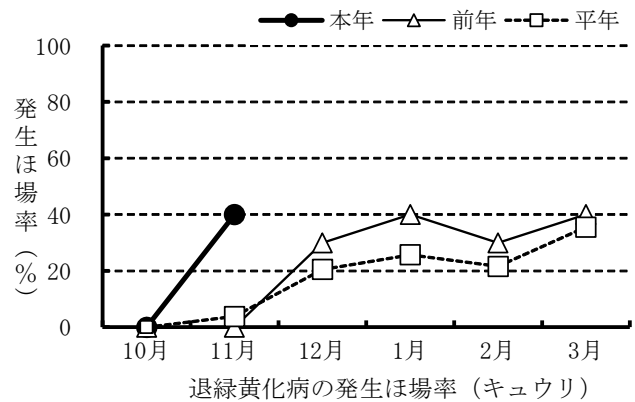
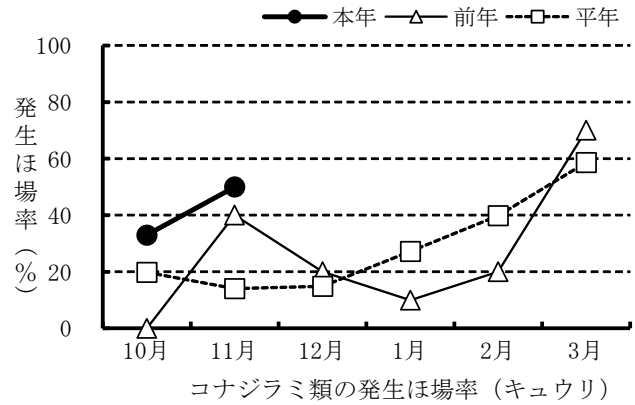
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率50%（平年14%）：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、黄色粘着トラップを設置してコナジラミ類の早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 11月調査における本病の発生ほ場率は40%（平年4%）と高いため（右下図）、コナジラミ類の防除を徹底する。
- (ウ) 罹病株は伝染源となるので、ほ場の見回りをを行い、罹病株を認めたら早急に抜き取り、処分する。
- (エ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (オ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

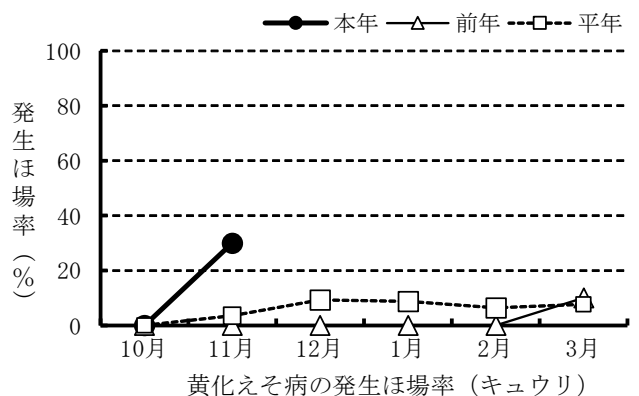
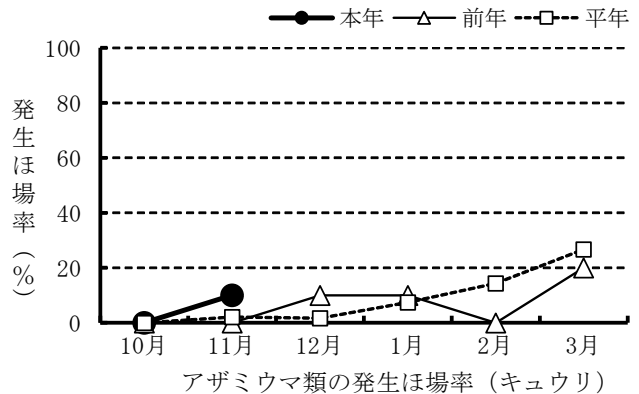
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率10%（平年2%）
：やや高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、青色粘着トラップを設置してアザミウマ類の早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 11月調査における本病の発生ほ場率は30%（平年4%）と高いため（右下図）、アザミウマ類の防除を徹底する。
- (ウ) 罹病株は伝染源となるので、ほ場の見回りをを行い、罹病株を認めたら早急に抜き取り、処分する。
- (エ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (オ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



2. トマト

(1) コナジラミ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率36%（平年11%）：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）

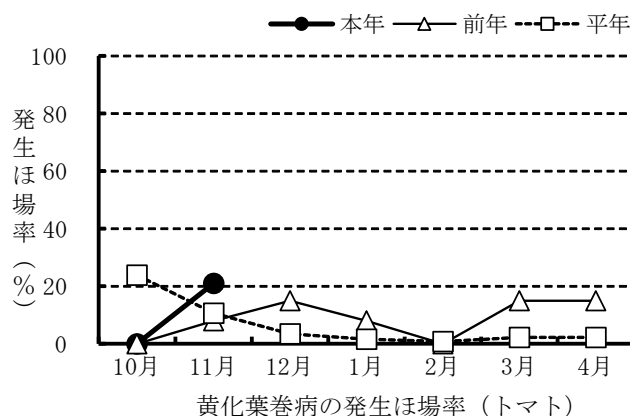
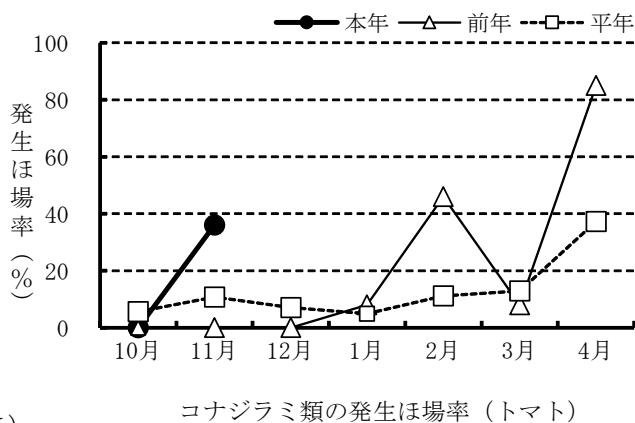
を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、黄色粘着トラップを設置してコナジラミ類の早期発見と早期防除に努める。

- (イ) 11月調査における本病の発生ほ場率は21%（平年10%）とやや高いため（右下図）、コナジラミ類の防除を徹底する。

- (ウ) 罹病株は伝染源となるので、ほ場の見回りを行い、罹病株を認めたら早急に抜き取り、処分する。

- (エ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

- (オ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



3. ピーマン

(1) アザミウマ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率61%（平年45%）
：やや高い（+）

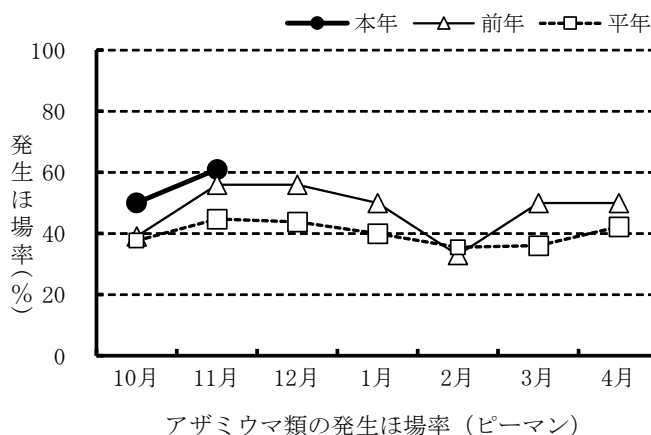
ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部（サイド等）等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。

- (イ) 花や新芽の中など農薬のかかりにくい場所に生息するため、散布は丁寧に行う。

- (ウ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。また、導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

- (エ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



(2) タバココナジラミ

ア 予報内容

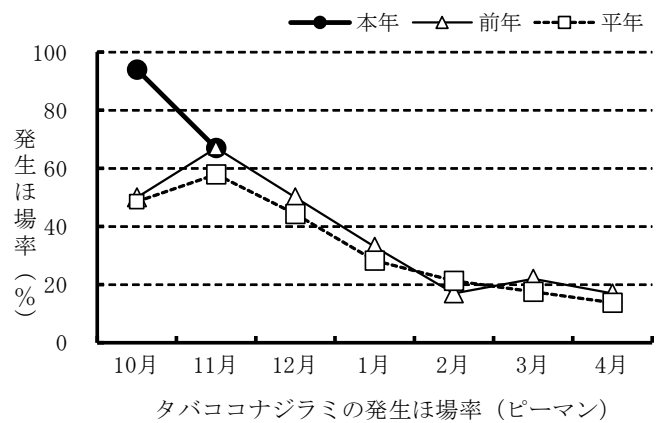
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率67% (平年58%)
：やや高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多発するとすす病を発生させるため、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



4. イチゴ

(1) うどんこ病

ア 予報内容

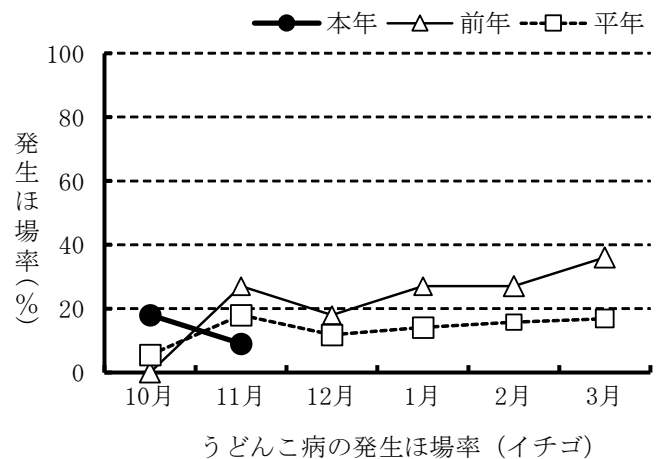
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率9% (平年18%)
：やや低い (-)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 防除は予防に重点を置く。農薬は、葉裏に十分かかるよう散布する。
- (イ) 展開葉の葉裏をよく観察し、早期発見と初期防除に努める。
- (ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。
- (エ) 発病果や発病葉、古葉は除去し、施設から持ち出して処分する。
- (オ) 窒素肥料の過多や葉が混み合うと多発しやすいので、適切な栽培管理を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

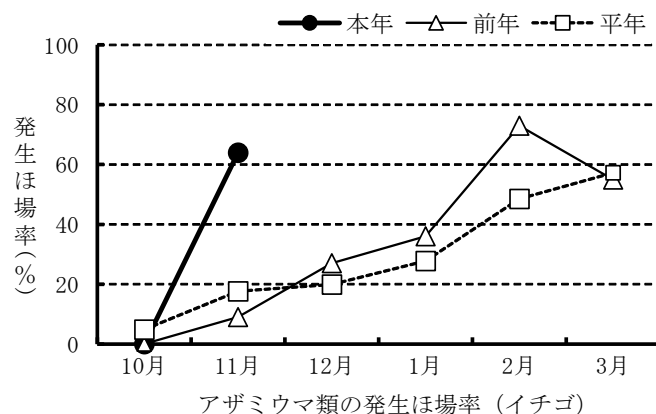
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率64% (平年18%)
：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 青色粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など農薬のかかりにくい場所に生息するため、農薬による防除を行う際は丁寧に散布を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。
- (エ) カブリダニ等天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (オ) 農薬によっては感受性が低下しているため、散布後は防除効果を確認する。
- (カ) 農薬によってはミツバチに影響があるので、選定に注意する。



(3) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率36%（平年54%）

：やや低い（－）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 天敵を導入するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、

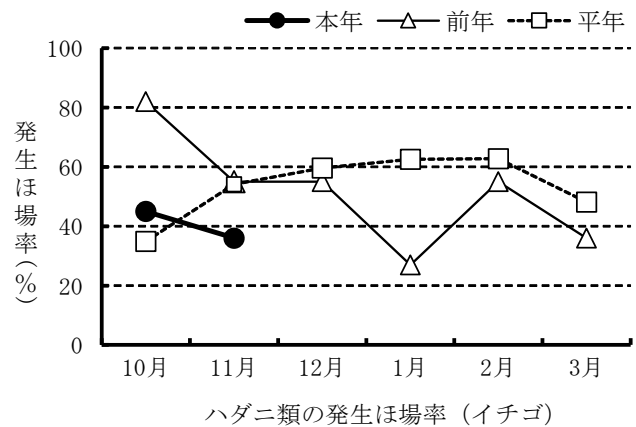
防除を徹底する。また、導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

(イ) 農薬の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

(エ) 農薬によっては感受性が低下しているため、散布後は防除効果を確認する。

(オ) 農薬によってはミツバチに影響があるので、選定に注意する。



防除に関する今月の留意事項



1. 施設野菜のハスモンヨトウ（令和6年度技術情報第19号（10月28日付）参照）

11月の巡回調査におけるハスモンヨトウの発生ほ場率は、トマトで29%（平年9%）、イチゴで55%（平年18%）と高かった。早期発見に努め、以下の点を考慮して防除対策に努める。

(1) 老齢幼虫に対する農薬の効果は低いため、若齢幼虫のうちに防除する。

(2) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。なお、一部のジアミド系農薬（プレバソンフロアブル5、フェニックス顆粒水和剤）に対して感受性低下が認められるため、他の使用農薬も含め、散布後の効果を確認する。

5. キャベツ

(1) 菌核病

ア 予報内容

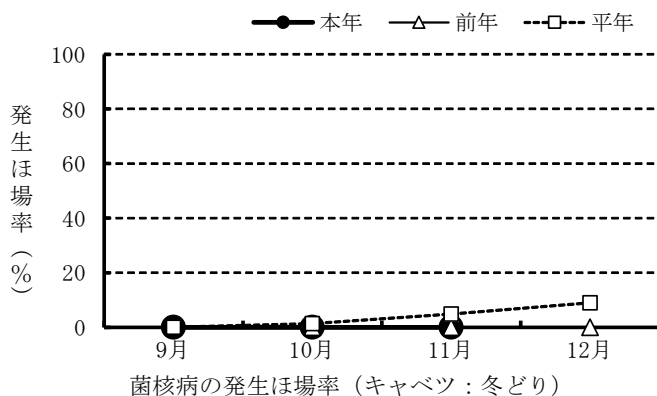
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 冬どり
- (ウ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率0%（平年5%）
：やや低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 病原菌は地際部から感染しやすいので、農薬は株元へ十分かかるように散布する。
- (イ) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が広がるので、発病葉は見つけ次第取り除く。
- (ウ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し処分する。
- (エ) 収穫終了後の残渣は適正に処分する。特に発病残さをほ場に残さない。



6. エンドウ類

(1) 褐紋病・褐斑病

ア 予報内容

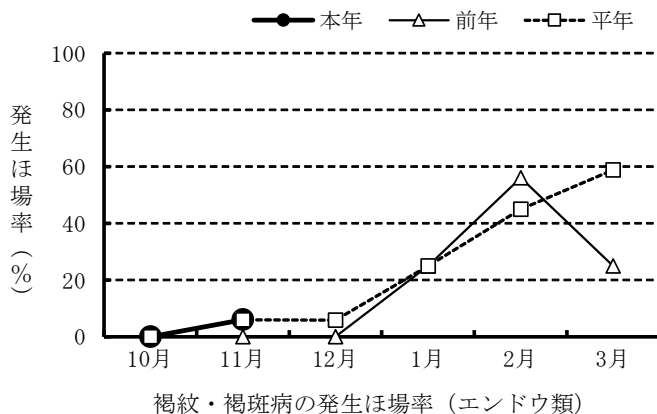
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 冬・春どり
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率6%（平年6%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 排水不良のほ場では多発しやすいので、排水対策に努める。
- (イ) 未発生ほ場では予防散布に努め、既に発生しているほ場では早めに防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

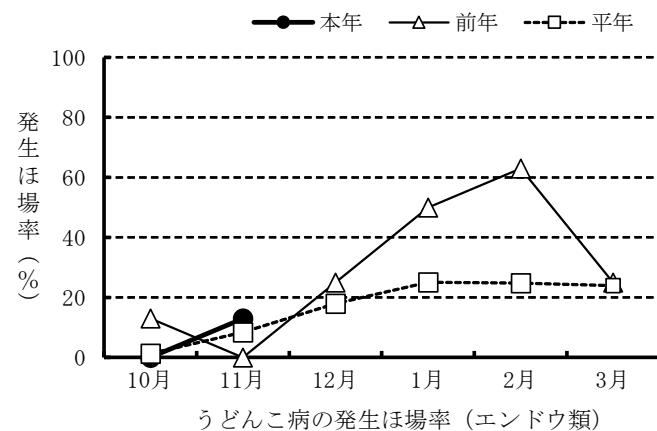
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 冬・春どり
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率13%（平年8%）：並
- (イ) 発生の多いほ場を認めた（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 着花～収穫初期に下葉から発病し
発生初期は汚白色の少斑点から白色の菌叢を生じる。未発生ほ場では予防散布に努め、既に発生しているほ場では早めに防除を行う。
- (イ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

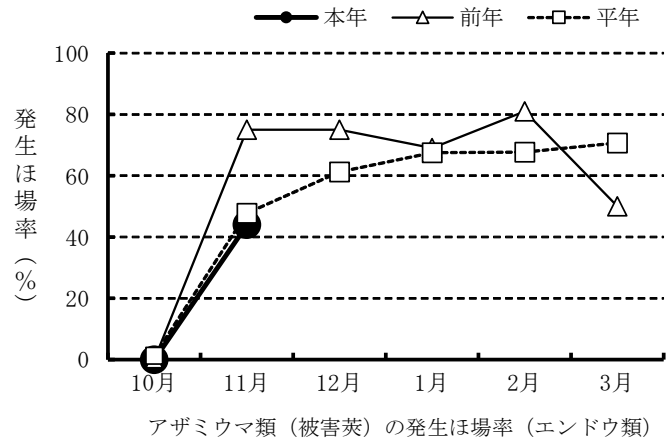
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 冬どり
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率 44% (平年48%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 主な発生種はハナアザミウマで、
若莢に産卵し、「白ぶくれ莢」となる
ので、若莢の被害や粘着トラップへの
誘殺等から発生状況を把握し、初期防除に努める。
- (イ) 花卉の奥に生息するため、丁寧な農薬散布に努める。
- (ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。



防除に関する今月の留意事項



1. トマトキバガ（令和3年度病害虫発生予察特殊報第3号参照）

志布志市，東串良町，霧島市に設置しているフェロモン

トラップの11月の誘殺数は，前年に比べ顕著に増加している。本県ではこれまでに本虫による農作物への被害を認めていないが，九州で被害が認められている地域もある。

本虫の寄主植物はトマト，ナス，ピーマン，パレイショなどのナス科植物や，インゲンマメ等のマメ科植物ある。トマトの被害は，葉では内部に幼虫が潜り込んで食害し，葉肉内に孔道が形成され（図1），果実では内部へ食入する（図2）。

ハウス内への侵入を防ぐため，コナジラミ類対策とあわせて0.4mm目合いの防虫ネットをハウスの開口部に設置する。

なお，本虫の発生が疑われる場合は，病害虫防除所（099-245-1157）へ連絡する。

表 トマトキバガの合成性フェロモントラップの誘殺数推移

調査品目	地点		R5年		R6年				
			11月	12月	1月	2月	3月	4月	11月
ピーマン	志布志市	No. 1	1	0	0	1	0	3	23
		No. 2	0	0	0	0	0	0	13
	東串良町	No. 1	1	1	1	0	0	0	10
		No. 2	6	2	1	0	0	0	9
トマト	霧島市	No. 1	5	2	0	2	2	6	14
		No. 2	1	1	0	0	1	2	8
計			14	6	2	3	3	11	77

※設置場所：トラップは各地点ともほ場周辺に設置

※調査期間：10月中旬～4月中旬

※調査間隔：1回/月



図1 幼虫に食害された被害葉



図2 幼虫に食害された被害果

(参考) トマトキバガについて



成虫：翅を閉じた状態で5～7 mm
翅は灰褐色で黒色斑が散在



幼虫：終齢幼虫で約8 mm
体色は淡緑色～淡赤白色
前胸の背面後縁に狭い黒色横帯

【写真提供：宮崎県総合農業試験場】

2. マメ類のウラナミシジミ

幼虫は莢の中に入り、子実を食害する。そのため、成虫がみられる産卵からふ化直後までの農薬防除が重要である。防除の遅れによって被害が拡大しないように、作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布により防除を行う。

3. エンドウ類のごま症対策

スナップエンドウの「ごま症」はうどんこ病菌及び褐紋病菌が原因で引き起こされることから、
6. エンドウ類（1）褐紋病・褐斑病，（2）うどんこ病の防除上注意すべき事項に準じて防除を行う。

Ⅲ. 花き

1. キク

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率40%（平成32%）

：やや高い（+）

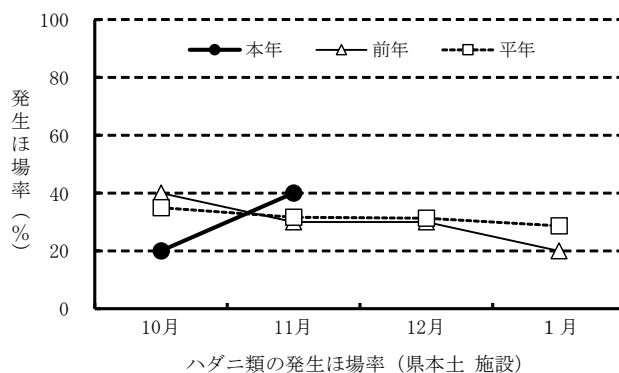
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する機会が多いため、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬液は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土（施設） やや多

奄美地域（露地） やや多

イ 予報の根拠

< 県本土（施設） >

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率50%（平成36%）

：やや高い（+）

< 奄美地域（露地） >

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率60%（平成56%）：並

発生程度の高いほ場を認めた（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類の発生動向を把握するには、出入口や開口部付近での青色粘着シートを設置が有効である。なお、クロゲハナアザミウマの誘引効率はやや低いと思われる。

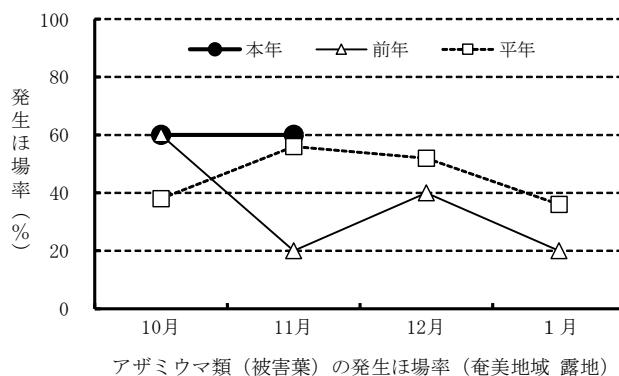
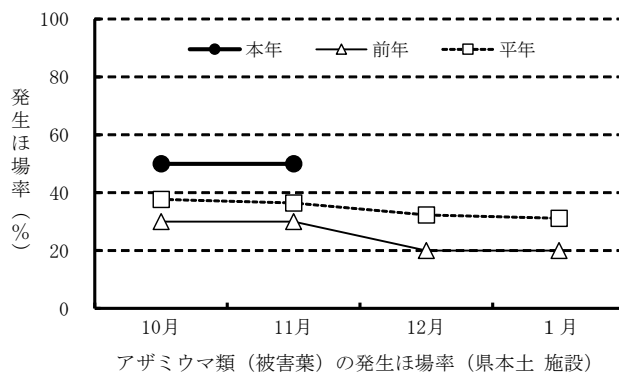
(イ) クロゲハナアザミウマは中下位葉に寄生しているため、よく観察して早期発見に努め、発生が認められた場合は、薬液が中下位葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) アザミウマ類は、キクえそ病の病原ウイルス（TSWV）とキク茎えそ病の病原ウイルス（CSNV）を媒介するため、ほ場への侵入防止と早期発見及び早期防除に努める。

(オ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(カ) 母株や苗は導入時に、アザミウマ類の寄生やウイルス病の発生がないか確認し、持ち込まないようにする。



IV. 果 樹

防除に関する今月の留意事項

1. カンキツの貯蔵病害（青かび病，緑かび病，軸腐病）

収穫時の気温が高く降雨が多いと腐敗果が発生しやすいので，以下の点を考慮して防除対策に努める。

- (1) 貯蔵を要する普通温州や中晩柑類は収穫前に必ず防除する。なお，防除薬剤は収穫予定日を想定し，収穫前日数に注意して選定するなど，使用基準を厳守する。
- (2) 収穫時には果実に傷をつけないように手袋を使用し，果梗部の二度切りは丁寧に行う。

農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋等）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には農薬がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は、住宅地及び畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬及び使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（+）、（-）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平均値を用いている。